

## (1) キク

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
褐斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	5回以内
黒さび病	ステンレス	アンパム液剤	M3		2000倍	100～400 $\mu$ g/10a	-	散布	8回以内
	マネージ乳剤	イメベシコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	発病初期	散布	6回以内
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	6回以内
さび病	エムダイヤール水和剤	マンゼブ水和剤	M3		400～650倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	8回以内
白絹病	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～5mL<圃場>1穴 当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を 30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴 当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1 錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	トクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴 当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
白さび病	アンピルフロアブル	ヘキサコナゾール水和剤	3		1000倍	150～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	7回以内
	カナメフロアブル	インピルフルキサム水和剤	7	劇	4000～8000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	3回以内
	コロナフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		800倍	100～300 $\mu$ g/10a		散布	-
	サブロール乳剤	トリホリン乳剤	3		1000～1500倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ジマンダイセフフロアブル	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		500～800倍	150～300 $\mu$ g/10a	-	散布	8回以内
	ステンレス	アンパム液剤	M3		2000～3000倍	100～400 $\mu$ g/10a	-	散布	8回以内
	ストロビートフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	3回以内
	フィルト乳剤25	プロピコナゾール乳剤	3		3000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	3回以内
	トリフミン水和剤	トリフルシゾール水和剤	3		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	5回以内
	トリフミン乳剤	トリフルシゾール乳剤	3		1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	-	散布	5回以内
	ハシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		500～1000倍	100～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ピリカット乳剤	ジフルメトリム乳剤	39		1000倍	0.2～0.3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	発病初期	散布	6回以内
	マネージ乳剤	イメベシコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3 $\mu$ g/m <sup>2</sup>	発病初期	散布	6回以内
	ラリ乳剤	マイクロタニル乳剤	3		3000倍	200～300 $\mu$ g/10a	発病初期	散布	5回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
立枯病	クオルビ <sup>®</sup> クリン	クオルビ <sup>®</sup> クリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~5mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	クオルビ <sup>®</sup> クリン錠剤	クオルビ <sup>®</sup> クリンくん蒸剤	8B	劇	1㎡当り6錠			土壌くん蒸<圃場>「1㎡当り6錠処理」 地表面に所定量を散布処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
					1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を 30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴 当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1 錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	ト <sup>®</sup> ロコロ	クオルビ <sup>®</sup> クリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
炭疽病	エムダ <sup>®</sup> イファー水和剤	マンネブ <sup>®</sup> 水和剤	M3		400~650倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	エムダ <sup>®</sup> イファー水和剤	マンネブ <sup>®</sup> 水和剤	M3		400~650倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発病初期	散布	8回以内
半身萎凋病	クオルビ <sup>®</sup> クリン錠剤	クオルビ <sup>®</sup> クリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を 30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴 当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1 錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
べと病	エムダ <sup>®</sup> イファー水和剤	マンネブ <sup>®</sup> 水和剤	M3		400~650倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発病初期	散布	8回以内
アザミヤカ類	アファーム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		1000~2000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	5回以内
	スピ <sup>®</sup> ノエース顆粒水和剤	スピ <sup>®</sup> ノサド 水和剤	5		5000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	2回以内
	トクチオン乳剤	ブ <sup>®</sup> ロチホス乳剤	1B		1000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	5回以内
	ハチハチ乳剤	トルフェンビ <sup>®</sup> ラド <sup>®</sup> 乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	4回以内
	ファインセーフ <sup>®</sup> フロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	2回以内
	モスピ <sup>®</sup> ラン粒剤	アセタミプロ <sup>®</sup> リド <sup>®</sup> 粒剤	4A		1g/株		生育初期	株元散布	1回
アブラムシ類	ア-デ <sup>®</sup> ント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		1000倍	150~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	5回以内
	ウララ50DF	フロニカミド <sup>®</sup> 水和剤	29		5000~10000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	6回以内
	オリオン水和剤40	アネカルブ <sup>®</sup> 水和剤	1A	劇	1000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	5回以内
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000~2000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	-	散布	6回以内
材かこが	ア-キ乳剤	レビ <sup>®</sup> メクシン乳剤	6		1000~2000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	6回以内
	スピ <sup>®</sup> ノエース顆粒水和剤	スピ <sup>®</sup> ノサド 水和剤	5		2500~5000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	フルベ <sup>®</sup> ンジ <sup>®</sup> アミド <sup>®</sup> 水和剤	28		2000倍	100~300 <sup>g</sup> /10a	発生初期	散布	4回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
コガネムシ類幼虫	D-D	D-D剤	8A	劇	15～20% <sub>w</sub> /10a(1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	8A	劇	15～20% <sub>w</sub> /10a(1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
センチュウ類	カオルビ <sup>®</sup> クリン錠剤	カオルビ <sup>®</sup> クリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
センチュウ類(ハカレセンチュウを除く)	カスタート <sup>®</sup> 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バースアミド <sup>®</sup> 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
ネグサレセンチュウ	D-D	D-D剤	8A	劇	15～40% <sub>w</sub> /10a(1穴当り1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ネグサレセンチュウ	テロン	D-D剤	8A	劇	15～40% <sub>v/v</sub> /10a(1穴当り1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	ネマトリンエース粒剤	ホスチアセート粒剤	1B		20～25kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回
ネコブセンチュウ	D-D	D-D剤	8A	劇	15～20% <sub>v/v</sub> /10a(1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	8A	劇	15～20% <sub>v/v</sub> /10a(1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
ハスモンヨトウ	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	5回以内
ハダニ類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	2回以内
	スターマイトフロアブル	シエノピラフェン水和剤	25A		2000倍	100～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	1回
	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	3A		1000倍	150～300% <sub>v/v</sub> /10a	-	散布	3回以内
	ピラニカEW	テラフェンピラト乳剤	"21A(*"	劇	1000～2000倍	150～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	1回
ハモグリバエ類	アルパリン顆粒水溶剤	ジメトラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1% <sub>v/v</sub> /m <sup>3</sup>	発生初期	灌注	5回以内
	スタークル顆粒水溶剤	ジメトラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1% <sub>v/v</sub> /m <sup>3</sup>	発生初期	灌注	5回以内
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		5000倍	100～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	2回以内
マメハモグリバエ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	5回以内
	カスケート乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300% <sub>v/v</sub> /10a	発生初期	散布	3回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
マメハモク リハエ	ジエイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		6～9kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内
ミカンキロアザミウマ	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		1000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内
	オンコル粒剤5	ペンフラカルブ粒剤	1A		9kg/10a		生育期	株元散布	3回以内
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	3回以内
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内
ミミキイロアザミウマ	オンコル粒剤5	ペンフラカルブ粒剤	1A		6～9kg/10a		定植時	植溝土壌混和又は株元散布	1回
					9kg/10a		生育期	植溝土壌混和又は株元散布	3回以内
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内